

栃木の魅力向上に向けて

初心

2026年盛夏号

令和8年8月発行
年2回刊

題字/福田富一 書

〈発行所〉

福田富一
暮らしと政治研究所

〒320-0026
宇都宮市馬場通り2丁目1番12号
TEL 028 (633) 1111
<http://www.tomikazu.com>

「世界を視野にさらに輝く栃木づくり」

栃木県知事

福田富一



知事応接室で日々さまざまな来客の対応をする福田富一知事＝5月、栃木県庁

《任期折り返し》

多くの皆様にお世話になり、支援を得て当選できた6期目の任期も間もなく折り返しを迎えようとしております。異常気象・気候変動・地球温暖化等日々ニュースで取り上げられています。7月の豪雨すなわち線状降水帯により足利市をはじめ県南地区で、8月、熊本県では大地震により甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方々にも悔やみを申し上げますとともに被害にあわれた皆様には改めてお見舞い申し上げます。

《稼ぐ力を高めるために》

人口減少、超高齢社会にあるっては、インバウンドによる観光振興や、農畜産物等の食料品の輸出等で稼ぐ力を高めていかねばならない。その前提として世界の平和や自由貿易が欠かれない。今日の不安定な状況は好ましくない。今日のものであるが手を休める訳にはいかない。

8月に里帰りをしたロサンゼルス在住の方(元県公式アンバサダー・とちぎ未来大使・コンサル業)から、県内有機栽培いちご農家のいちごが1個20ドル(約3,200円)で売れていると報告を受けた。ある梨農家では、米国のバイヤーに昨年梨ジュースを試験輸出したところ、今年は本格的に商談中とのこと。栃木和牛や地酒も海外での人気商品だ。インバウンド客の宿泊数も約33万人となり史上最高となっている。

《国内での各指標》

☆日本一の項目
・いちご
収穫量57年連続
産出額30年連続
食味(第4回全国いちご選

手権) 1位で3冠達成
・かんぴょう・もやし・うど・麻・二条大麦

・医療機器・医療用X線装置・歯科用機械器具と装

置・シャッター・ふとん

・果実酒生産量・高校生献血率・家族で楽しめる旅行先(壬生町)・生成AI導入自治体割合

☆同2位の項目
・ニラの生産量・生乳の生産量・医薬品生産額・移住希望地・学校給食食材の地場産物の割合・県外本社の県内への立地件数(工場等)

☆同3位の項目
・子どもの幸福度・ハザードマップの策定率

☆同4位の項目
・東京23区内からの移住件数

☆同10位の項目
・ブロスポートチーム9チーム(今季栃木に拠点を移したラグビーの「ホンダヒート」を含む)

・国宝の数(17件)
主なものを紹介したが、今年の1月以降の全国ランキングの成績は上々だ。

《残念ながら健康度が…》

長年の懸案は県民の健康度にある。

平均寿命は女性45位、疾患別死亡率では脳血管疾患男性45位・女性44位、糖尿病疾患女性43位、心疾患男性41位と健康度は極めて低位となっている。

《医療環境も底上げへ》

☆救急医療提供体制
知事選挙の際課題として論ぜられた、高度救命救急センターの指定については、検討委員会の提言を踏まえ、早期に「本県にふさわしい機能を備えた高度救命救急センター」を設置する。

☆県立病院の再整備
県立病院あり方検討有識者

会議からの提言を踏まえ、来年8月の策定を目指して新県立病院基本構想策定委員会で十分な議論と検討を重ねている。具体的には、県立3病院とNHQ栃木医療センター(旧国立病院)が担ってきた役割や診療機能を基本とし、NHQとの基本合意書を踏まえ、新たな県立病院の在り方を検討している。

《栃木の魅力向上に向けて》

☆栃木会館跡地整備事業
このたびの提案事業により、優先交渉権者として(株)足利銀行が決定した。あらゆるものをCONNECTし、共に豊かな「みらい」へ進んでいく。として、地域に開かれた「銀行本店」を核とし、「共創拠点」と「憩いの場」を低層階に整備した複合施設として整備する。今回の基本協定締結を経て、2031年の開業を目指す。

☆文化と知の創造拠点整備事業
県立美術館、図書館及び文書館を一体的に整備し、3施設の連携や相互利用、利用者の相互交流による新たな活動の創出など、相乗効果が発揮できる施設とするものだ。

事業総額1,030億円の見通しについては、約5年半を要する設計・建設のハード整備のほか、約15年間の運営事業費、維持管理費、割賦手数料等も含めた、約21年間のPFI事業を実施するため、要する費用の総額である。

従来方式と比較して概ね20億円の財政負担が軽減でき、令和16年6月開館に向けて諸手続を進めている。

将来を見据えて、国内外から選ばれる栃木づくりをしつかり進めて参りますので、引き続きご指導ご支援を宜しくお願い致します。

食育で未来を拓く

栃木の食の魅力を全国に発信

本県初開催となった食育推進全国大会の開会式であいさつする福田知事
11月6日午前、宇都宮市元今泉6丁目



食育の輪 本県から広がれ 「第21回食育推進全国大会inとちぎ」

食育に関する国民の理解促進を図る「第21回食育推進全国大会inとちぎ」(農林水産省、県共催)が6月6日、本県で初めて開催された。

会場となった宇都宮市元今泉6丁目のマロニエプラザとその周辺には、食育をテーマにしたステージイベントやワークショップを目当てに、家族連れなど約1万6千人が来場した。

同大会は毎年6月の「食育月間」に合わせ、農水省と各都道府県が持ち回りで共催している。今回は「とちぎからつながる恵みの輪」作って食べて学んで 食育で未来を拓

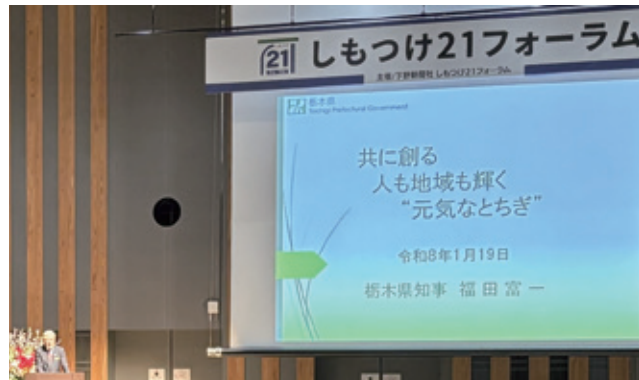
こう」を大会テーマに、様々なイベントを展開した。

開会式には、鈴木憲和農相や福田富一知事をはじめ、本県選出の国会議員や県議、食育推進に取り組む関係団体の代表者らが出席した。

鈴木農相は「『食べる』ということは『生きる』ということ。栃木の豊かな食材での『おいしい』という体験を通じて、食育を実践してほしい」とあいさつ。

福田知事は「大会を契機に栃木から全国へ、食と農の輪がさらに広がることを願う」と期待を寄せた。

開会式では、食育推進に貢献している全国21団体への表彰式も行った。



人口減対策 官民で立案

「しもつけ21フォーラム」

福田富一知事は1月19日、宇都宮市内で開かれた「しもつけ21フォーラム」(下野新聞社主催)1月例会で講演し、2026年度に、官民共創で人口減少対策の施策立案に取り組む事業を始めると表明した。初期の検討段階から多様な主体が連携することで、新たな発想の施策を目指す。結婚支援の充実では、「とちぎ結婚支援センター」の登録無

料キャンペーンの対象拡大に取り組み意向を示した。

新たな事業は、25年度に実施した若者と知事の意見交換「とちぎ若者会議」での提案を具現化した。人口減少対策のアイデアをワークショップ形式で検討し、メンバーは公募委員や県職員に加え、子育てや若者支援に取り組む企業や団体「とちぎ人口未来パートナー」の推薦者で構成する。

マルシェ、収穫体験堪能

「いちご王国・栃木の日」

「いちご王国・栃木の日(1月15日)」の記念イベントが1月18日、県庁周辺で開かれ、多くの来場者が全国のイチゴの食べ比べパックが並んだマルシェや出張イチゴ狩り体験などを満喫した。

県が2018年にいちご王国・栃木の日を宣言してから毎年開催している。県議会議事堂1階では、いちご王国の国王にふんじた福田富一知事

が「これからは国内はもとより、世界のいちご王国・栃木を目指していく」とあいさつした。

県庁舎本館では、昨年11月に「全国いちご会議」が本県を主体に発足したことを踏まえ、あまおう(福岡県)やゆうべに(熊本県)、きらび香(静岡県)など他県産イチゴ6種のうち2種をセットにした食べ比べパックを限定販売した。



いちご王国の国王に扮してあいさつする福田知事=18日午後、県議会議事堂

県政の課題 知事に質問 「知事と語ろう!とちぎ元気フォーラムin 星の杜中学校・高校」



中高生と福田知事が意見交換した「知事と語ろう!とちぎ元気フォーラム」=29日午後、宇都宮市上籠谷町

福田富一知事が中高生と直接対話する「知事と語ろう!とちぎ元気フォーラムin星の杜中学校・高校」が7月29日、同校で開かれ、生徒約30人が知事と率直な意見を交わした。

県民参加による開かれた県政の推進を図るための広聴事業の一環。意見交換は「栃木のトップリーダー×チェンジメーカー」星の杜生と栃木の未来をアップデート」をテーマに掲げ、生徒の質問に知事が答える形式で実施した。

生徒からは、次世代型路面電車(LRT)事業の今後の展望や、若者の挑戦を後押しする県の仕組みなどについて疑問の声が寄せられた。

県政の課題と若者に期待する役割について、福田知事は「最重要課題は人口減少と少子化。若い世代の柔軟な発想と視点は、地域や県政にとって貴重だ」などと語った。

このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、の記事を抜粋させていたたきました。

農地確保、地方に裁量を 関東地方知事会

首都圏など10都県でつくる関東地方知事会は5月26日、東京都千代田区の都道府県会館で定例会議を開き、国の施策や予算に関する提案・要望12件などを協議した。本年度、会長を務める福田知事は「広域での連携が必要な課題が山積みしている。い

そう結束し、国に対してしっかりと働きかけていくことが重要だ」とあいさつ。本県は国が定めた「農業振興地域制度に関するガイドライン」の問題点を指摘し、見直しを訴えた。

国のガイドラインは、都道府県が設定した年間許容量を超えることを「支障を及ぼす恐れ」の判断基準に

7月26日、車体にイチゴなどをデザインしたラッピング電車「いちご王国Berry Lucky(ベリーラッキー)トレイン」の出発式。26日午後、東武日光駅



規定。基準を超えた場合は、翌年度に除外目的変更を行う市町村に対し、農地の造成などの影響緩和措置を義務付けた。福田知事はこうした対応を「不公平感がある」と指摘。「特定の自治体に不利益がないよう地方の実情に応じて裁量を認めてほしい」と主張した。

給食無償化 国全額負担を

全国知事会議

7月16日・17日に鳥取県鳥取市で開かれた全国知事会議は17日、子育て支援策に関する国への提言をまとめ、2日間の日程を終えた(下写真)。

医療費助成の地域間格差をなくするため、国が負担して全国一律に実施するよう求めた。人口減少問題の克

服に向け、国民運動を展開するとして「鳥取宣言」も採択した。

子どもの医療費助成に関し、住む地域によって対象年齢や自己負担金などの制度内容が異なるため、保護者の間で不公平感が生じていると指摘。所得や地域に関係なく安心して

子育てできる環境整備に向け、国の財源で全国一律の助成制度を創設すべきだとした。

公立小学校での給食無償化を公立中学校に拡充することや、幼児教育・保育の完全無償化の実現も要請。子どもの自殺が増加傾向にあるとして、防止対策への支援強化も訴えた。

福田富一知事は給食無償化の提言を巡り、国による全額負担や公立中学校への拡充などの必要性を訴えた。

◇1月5日 部局長らに年頭の訓示「馬力とスピード感で飛躍の1年に」

◇1月30日 都内で「第74回関東東海花の展覧会」／展覧会会長として秋篠宮ご夫妻らの案内役を務める。

◇1月31日 東京都渋谷区で「とちぎのいちごのふえす2026」／とちあいかを無料で配布する。

◇2月10日 県総合文化センターで「生涯スポーツ・体づくり全国会議2026」本県で初開催／スポーツ推進へ意見交換する。

◇2月11日 コンビニ店舗木造化の実証第1号店となる「セブンイレブン宇都宮新町1丁目店」オープニングセレモニー

◇3月28日 宇都宮市都心環状線が全線開通／時間短縮、渋滞緩和に期待。

◇4月1日 辞令交付式／「本県の魅力発信などに皆さんの協力が必要」。

東奔西走の日々

◇4月6日 春の交通安全県民総ぐるみ運動／宇都宮市中央1丁目の大いちょう前で交通安全を呼びかける。

◇4月14日 県立夜間中学「県立とちぎ学びの夢学園」が開校／「夢や希望を育む学校として大いに発展してほしい」と祝辞を述べる。

◇5月31日 親園佐久山バイパス開通／「渋滞緩和と地域発展に寄与する」。

◇6月24日 田川の浸水対策重点地域緊急事業の竣工式／「調整池設け被害を抑制する」と知事。

◇7月6日 鹿沼・日光・塩谷地区ブロック別市町村長会議／医療や保育などで意見交換する。

◇7月11日 真岡南バイパス開通式／「4車線化で渋滞解消に期待する」。

◇7月22日 復興庁を訪れ、本県への防災庁設置などを要望する。

◇7月22日 東京都内で東京栃木県人会／「栃木の力強い応援団として支援いただき感謝している」と挨拶。

◇7月30日 厚生労働省に要望書を提出／医学部「地域枠」の増員求める。

脱炭素・地球温暖化対策本部長として「脱炭素社会の実現に向けた対策に関する提言」の策定を主導。会議後、「地域の脱炭素を推進するため、財源確保などを国に働きかけていく」とのコメントを出した。

また、来年7月に宇都宮市で本県初となる全国知事会議の開催が決定したことについて「大変喜ばしく思う。本県での会議を契機として、全国知事の連携をより一層強化するとともに、開催県として、国への提言取りまとめに向け、充実した議論ができる場を提供したい」と意欲を示した。

県スポーツ功労賞を授与 デラ女子サッカー伊東増田 パラアイスホッケー金子

県は1月23日、昨年の東京デフリンピックで銀メダルを獲得したサッカー女子日本代表の伊東美和選手(24)＝上三川出身、茨城県聴覚障害者協会＝と、増田香音選手(22)＝足利市出身、県聴覚障害者協会＝に知事特別表彰の県スポーツ功労賞を授与した。2人はいずれも初の受賞。県庁で授与式が行われ、福田知事から表彰状や記念品が手渡された。福田知事は「これからも日本代表選手として大いに活躍してください」と激励した。

県は4月22日、3月のミラノ・コルティナ冬季パラリンピックに出場したパラアイスホッケー日本代表のFW金子幹央選手(50)＝宇都宮市出身、東京アイスバーンズ＝に知事特別表彰の県スポーツ功労賞を授与した。金子選手の受賞は初。県庁で行われた授与式では、表彰状とガラス製トロフィーなどが贈られ、福田知事は「勇姿を世界に届けてくれて、県民として誇りに思う。今後の活躍を期待している」と激励した。



県スポーツ功労賞を受賞した東京デフリンピックサッカー女子日本代表の伊東選手(右)と増田選手(左)＝県庁



福田知事から県スポーツ功労賞を授与されたパラアイスホッケー日本代表の金子選手(左)＝県庁



日本語教育、就業体験も

越ハノイ工科大と覚書

高度外国人材の県内受け入れを促進するため県は3月19日、ベトナムの技術系大学で最高峰とされるハノイ工科大と連携に関する覚書を締結した(左写真)。県が海外の教育機関と同様の覚書を結ぶのは初めて。2026年度から在学生の日本語教育や、県内



企業でのインターンシップを展開する。福田知事は同日、オンラインで同大のフィン・クエット・タン学長と会談し、円滑な採用・定着に向け協力する方針を確認した。福田知事は19年からトップセールスでたびたび同国を訪れ、同大とは23年に交流を開始した。昨年12月にも、タン学長と連携に向け意見を交わしていた。オンライン会談で福田知事は「(ハノイ工科大は)人材交流の面で大変重要なパートナーだ」と強調し、タン学長は「学生が日本へ直接アクセスする機会が増え、国際的な適応力を高められる」と期待を寄せた。

日仏の学生交流強化などに意欲

駐日大使、福田知事表敬

フランスのベアトリス・ル・フラペール・デュ・エレン駐日大使は6月23日、県庁に福田知事を表敬訪問し、日仏間の学生交流の強化などに意欲を示した。エレン大使は昨年



11月に就任した。この日は日光市内のフランス大使館別荘を視察後、県庁を訪れた。エレン大使は「日仏関係をより現代に合ったものにし、今まで強調されなかった科学分野や留学の分野での交流を皆さまでに理解してほしい」と述べた。

福田知事は本県とフランスのヴォークリューズ県に35年以上の交流があることを説明。「これからも友好交流を深めていきたい」と話し、エレン大使に県の伝統工芸品「野州てんまり」を贈った(上写真)。

人材、文化交流へ意見交換

ウズベキスタン要人知事表敬

中央アジア・ウズベキスタンの政府関係者らが5月29日、県庁に福田知事を表敬訪問し、ビジネスや人材・文化交流の発展に向けた協力関係について意見交換した。

訪れたのは同国フルガナ州のボザロフ・ハイルロ知事(左写真)、同国政府のアブドゥラエフ・オリムジョン外務副大臣ら。宇都宮市内で同



会談では、ボザロフ知事が本県を「先端的な技術や農業質の高い教育、産官学のビジネス連携を推進している」と評価。「フルガナ州と栃木県は、さまざまな分野で互いに補い合えるのではないか」として、産業や農業、教育、文化面での協力に向けた覚書の締結などを提案した。

「ゆりの会新年会」

2月15日、恒例の『ゆりの会新年会』が、ホテル東日本宇都宮を会場に180余名の華やかな装いの皆様をお迎えして開催された。

福田知事が直近1年間の県政を報告。乾杯のあとドレミミュージックの皆さま(上写真)が「情熱大陸」や「春よ来い」などの名曲を演奏して下さい、写真撮影や抽選会と、会は終始和やかに繰り広げられた。来年の『ゆりの会新年会』は2月21日(日)に予定しております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



『福田家の茶の間』

今年は元旦の新年祝賀の儀に続き、4月17日には赤坂御苑での春の園遊会に10年ぶりに招待されました(写真)。今上天皇に代わって歓談スタイルが変更されたそう、天皇皇后両陛下をはじめ皇族方お一人おひとりとお話することができ、貴重な経験をさせて頂きました。



この時初めて主治医から延命治療について話しをされた。「元気に93歳を迎えられたのは奇跡」と言われた。夫には「母の年齢まであと20年あるね」と話して顔を見合わせた。人生100年時代と言われながらも、実際に93歳を元気に迎えることの難しさを実感した。

ところで今年の夏は、母の3回の入院と妹の突然の心筋梗塞での入院が重なり、てんてこ舞いした。

母の最初の入院は4月、褥瘡の悪化から入院したが、血尿が続く、さらに脳梗塞を起こした。入院中であつたため迅速な治療を受けられ、大事に至らなかったことは不幸中の幸いだったが、退院して4日後、高熱が続く尿路感染症と診断され抗生物質投与のため再び2週間の入院。そして1か月後にも尿路感染症で2週間入院となった。

この間、6月に妹が緊急心筋梗塞で救急搬送された。大変危険な状態であつたが、先生方の迅速な治療のおかげで危機を脱し、回復して今はリハビリに励んでいる。命を助けてくださった皆さまには感謝してもしきれない。また夫の無言の理解にも感謝している。

これまで私たちは皆様にお世話になるばかりだったが、これからは少しでもお世話する側になれるよう、健康管理に気を付けて元気に過ごしていきたいと思う。季節の変わり目ですのでくれぐれもご自愛のほどお願い申し上げます。

編集後記

毎日のように報じられる記録的な大雨や地震、台風の二ユースを見ると、もはや災害は日本列島どこで起きてもおかしくない状況のように感じられる。改めまして、被災された皆さまには心からのお見舞いと一日も早い復興をお祈り申し上げます。

福田知事は『転ばぬ先の杖』という言葉通り、全力で県政の課題解決に邁進している。どうぞご一読下さい。

◇福田富一後援会総連合会事務所
◇福田富一暮らしと政治研究所
宇都宮市馬場通り2-11-12
電話 028(633)1111
FAX 028(633)1110